

東北海区沿岸水温予報(概年)

海域	経過 (10~1月)	現況(1月下旬~ 2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	津軽暖流域の水温は、ほぼ平年並。津軽暖流の東方への張り出しは、ほぼ平年並。沿岸定地水温は、10月平年並~やや高め、11月~1月平年並~やや低め。	津軽暖流域の水温は、ほぼ平年並。この期間、定線観測なし。	津軽暖流域の水温は、やや低め~平年並。津軽暖流の東方への張り出しは、平年並。	2月の対馬暖流の勢力がやや弱め(水温は全般にやや低め)であること、定地水温の現況等から判断。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	10月:表面 平年並~やや高め 100m深 平年並~高め 11月:表面 平年並~やや高め 100m深 平年並~やや高め、県南部沖合は平年並~やや高め 12月:表面 平年並 100m深 平年並~やや高め 1月:表面 やや低め~低め 100m深 平年並~低め	表面では本県沿岸、沖合ともに5~7程度で、平年並~やや低め。100m深では本県沿岸、沖合ともに6~8程度で、平年並~やや低め。	親潮第1分枝は北偏傾向で、本県沿岸、沖合ともに水温は平年並に推移する。	区館管区气象台発表の気象3ヶ月予測で気温は平年並に推移する可能性が高いこと。流水域の太平洋側への張り出しが少ないうこと。	本県沿岸、沖合ともに値直混合格が起っており、概ね200m深まで一様な水温となっている。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	10月:表面は概ね平年並、100m深は平年よりやや低め~極めて低め。 11~12月:表面は平年並~やや低め、100m深は142'E以東の沖合海域でやや低め~極めて低め。 1月10~12月に見られた100m深の極めて冷たい水は見られなくなり、概ね平年より低め~やや低め。	表面、100m深とも平年より1~2前後低めで、やや低め~平年並。	表面、100m深ともは平年よりやや低め~平年並で推移し、後に平年並~平年よりやや高めとなる。	親潮第1分枝の南端側は平年より北偏傾向で急速な南下は予想されず、また黒潮系暖水の北への張出も平年並~やや南偏傾向である。類似年の1975年2月(宮城県海域のみ)より親潮第1分枝の勢力は弱く、暖水塊の配置もやや異なるが、1975年は3月以降高気圧傾向に転じた。	イカナゴの産卵成長が例年より早い。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	10月:概ね平年並みの水温となったが、下層には局所的に冷水が分布し、県北部の距岸30海里付近で低めとなった。11月:親潮系冷水の勢力が強まり、県南部沖合を中心に低め基調となった。黒潮系暖水の波及は弱く、12月依然として親潮系冷水の勢力が強く、県中部以北の距岸30~50海里付近で極めて低めとなり、暖水舌がみられた。県1~2台の冷水が分布した。1月親潮系冷水は県北部中に分布したが、勢力は前月より弱まった。黒潮系暖水は県南部沖合から波及し、平年よりやや高め~高めで推移した。	県南部は前月に引き続き沖合からの暖水波及がみられたが、その沿岸側(距岸30~50海里)に親潮系冷水が差し込んだため、やや低めとなった。また、県中部以北の距岸30~50海里(暖水舌)がみられた。県中部以北は親潮系冷水に覆われ、ほぼ平年並みの水温となった。	期間前半は、距岸30海里以西、以東ともやや低め~平年並み。期間後半は、距岸30海里以内でやや低め、距岸300海里以東は低め~平年並み。	親潮系冷水の南下はみられるが、勢いで推移している。黒潮系暖水は県南部沖合を中心に断続的な波及がみられるが、こちらでも勢力は弱く、以上から、期間前半は現状並みで推移する。期間後半は親潮系冷水の勢力が強まる時期があるため、沿岸側は冷水波及を受けやや低め、沖合側は親潮系冷水の断続的な通過が見込まれ、低め~平年並みとした。	・昨年9月の解禁以降、県南部を中心にメヒカリ、ヤナギダコが豊漁(底曳)。 ・昨年10月以降、県北部でマダラの水揚量が増加。 ・昨年12月~2月上旬、シラウオが不振(船曳) ・12月~2月、カタクチイワシの水揚げが継続してみられている(まき網)
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	10~11月親潮系冷水の差し込みが継続し、黒潮域を除いて水温は全般に「低め」であった。12月:親潮系冷水の差し込みが継続し、黒潮域を除いて水温は「低め」であった。また、鹿島灘には暖水舌が形成されていた。1月親潮系冷水の差し込みが継続し、黒潮域を除いて水温は「低め」であった。	2月親潮系冷水の差し込みが継続し、鹿島灘には暖水舌が形成されている。水温は黒潮域を除いて「低め」となっている。	親潮系冷水の差し込みが継続すると考えられることから、水温は全般的に「低め」傾向で推移し、暖水舌が形成される鹿島灘では一時的に「平年並~やや高め」となる。	房総沖の黒潮の離岸変動が1~4月は現況とおり接岸傾向で推移すると予測されている(中央水研)。近海の黒潮の北偏位置が平年並~やや南寄りである鹿島灘では一時的に北水研。鹿島灘では10月末から暖水舌が断続的に形成されている。三陸・常磐毎或では親潮系冷水の差し込みが継続している。現況が継続すると考えた。	特になし

各階級の水温年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並み(40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~